

こうじ
工事の
げんば
現場より

旧矢筈原家住宅
保存修理事業

今はこんな様子だよ。

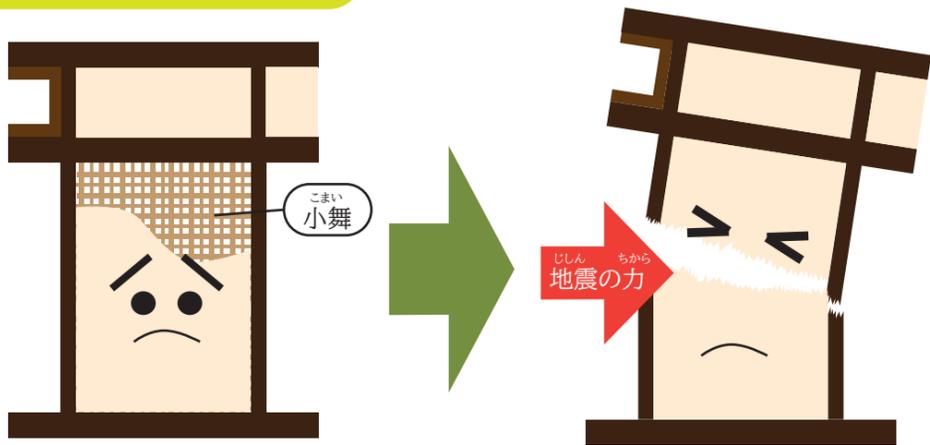
3月1週目



建物の内部では、耐震補強および劣化破損箇所修理のために木部の解体作業が行われています。耐震補強は主に壁を頑丈にし建物の強度を上げることを目標としています。表層の板壁・漆喰壁などを解体した後、壁の内部を小舞から構造用合板に改めるなどして頑丈にします。その後、見た目に大きな変更が無いよう表層を元通りにします。文化財建造物としての価値を守りつつ、建物とその中にいる人の安全を守るために検討した設計で、慎重な施工がなされています。

げんざい かべ こまい かべ
現在の壁（小舞壁など）

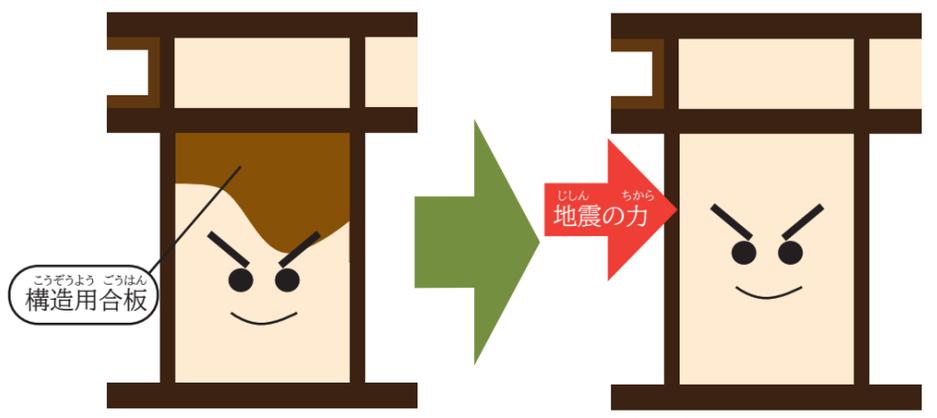
よわ かべ
弱い壁



強い力に耐えきれず壊れてしまうかも

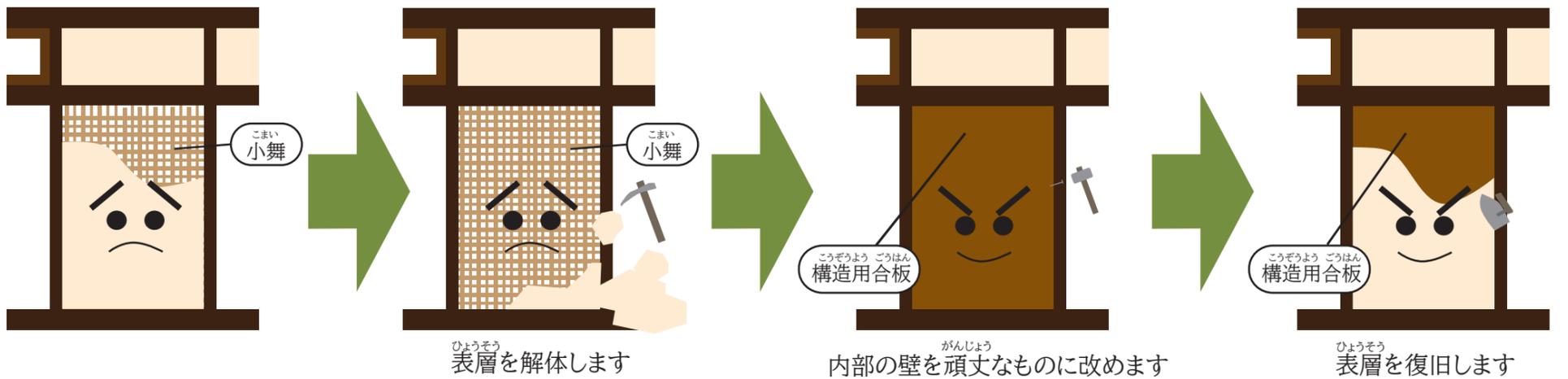
たいしんへき こうぞうようごうはん
耐震壁（構造用合板）

つよ かべ
強い壁



頑丈なので壊れない

耐震補強工事の流れ（例：左官壁での施工手順）

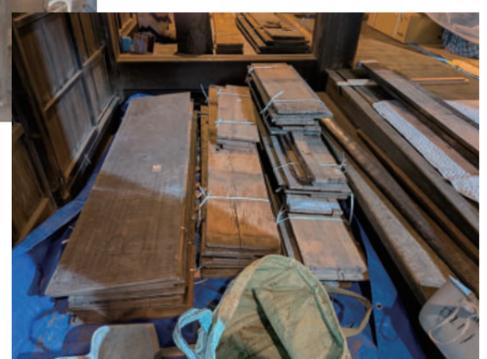


解体する箇所全てに、場所を記録する「番付札」を取り付けます。番付札は後に復旧する際の目印となるものです。



板壁は可能な限り現在の物を再利用し、元に戻す予定です。そのため板を破損しないよう、解体作業は極めて慎重に行いました。

【解体した板類⇒】



過去のお知らせはこちら